

## 医療機関と男女共同参画



佐藤 信昭

日本の男女共同参画の達成度は世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数（男女格差指数）2016によれば111位であった。国会における女性議員の比率（男性の1/9）は122位、官民の上級職における女性の比率で113位、女性の専門的・技術的労働者の比率で101位とされた。

そのような中、新潟大学医学部医学科1年生を対象とした医学入門（地域医療・総合診療・災害医療）「医師として活躍するための男女共同参画」と題して講義を担当した。県医師会は県民が安心、安全に生活できるように、医療提供体制の整備・充実を努めている。全国に比べ医師数が少ない新潟県の現状と女性医師のさらなる活躍を応援するために、性別を問わず、多様性を理解する男女共同参画への取り組みは重要であることを伝えたかった。

2014年の調査によると医療施設に勤務する人口10万対医師数は京都府が308人と最も多く、次いで東京都305人、徳島県303人であり、47都道府県中44位の新潟県は188人と京都府の61%である。

近年、女性医師の割合が増加傾向にあり、医学部生の約1/3が女性である。日本医師会が女性勤務医を対象としたアンケート（2017年2月20日～3月31日、有効回答者数は10,373人（病院勤務女性医師の25%））では、家庭内で女性だけの負荷が大きい、子育てだけではなく、医師業務との両立、キャリア形成の問題、幅広い選択肢への多様

な要望があった。

女性医師が働き続けやすい環境整備を進めるためには、管理者自らが女性医師を取り巻く状況やニーズを認識して、活用できる制度や社会資源を十分に把握し、相談窓口、勤務体制、診療体制、保育環境、復職支援等について、総合的な取り組みを推進する必要がある。一方で、女性医師自身がモチベーションを維持・向上しながら自らの希望するキャリア形成を図り、医師として社会的役割を果たしていくという視点が必要である。

医療において最大の潜在力である女性医師の活躍は、医療の質を確保し、安全な医療の継続的な提供につながる。さらに、女性の活躍、男女共同参画社会の実現は、人類史上経験したことのない少子・超高齢・人口減少社会にあるわが国が健全で活力のある次世代の育成につながる希望でもある。

（県医理事）

### 参考

- 1) 厚生労働省. “～安全かつ継続的な医療を提供していくために～「女性医師のさらなる活躍を応援する懇談会」報告書概要”. <<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000071859.pdf>>.（閲覧2017年11月21日）